



いなほ



令和4年3月7日
令和3年度学校だより NO.54①
加古川市立平荘小学校

狂言発表会リハーサルを行いました

春の温かい日差しの中、2月28日（月）に、平之荘神社で、第21回狂言発表会のリハーサルを行いました。子どもたちは、本番用の衣装を身にまとい、今までの練習の成果を発揮しようとリハーサルに臨みました。



平之荘神社へ出発です。みなさん、準備はできましたか？



司会です。



はじめのあいさつです。



「附子」の説明です。

《『附子』のリハーサルの様子です》



大の毒である「附子」の方からの風に当たらないようにと扇子で仰いでいる様子です。



次郎冠者が太郎冠者を心配する様子を演じています。





太郎冠者と次郎冠者の言い訳を聞く主人の様子です。

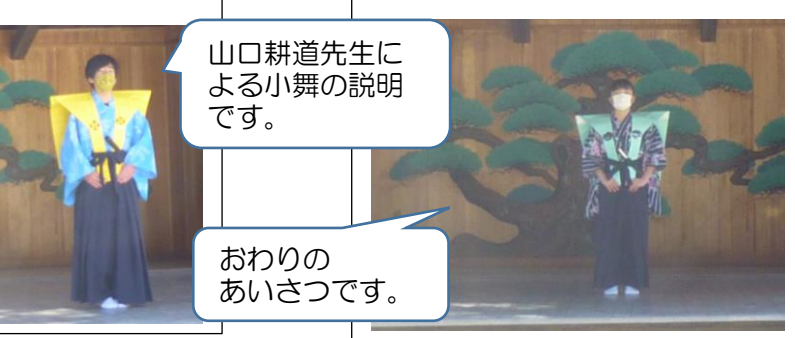


『柿山伏』の説明です。

《『柿山伏』のリハーサルの様子です》



山伏と畑主の息がよく合っています。



山口耕道先生による小舞の説明です。

おわりのあいさつです。

《山口耕道先生のお話より》



今年度は、平荘小学校の狂言が21年目を迎えます。今、この時にしかないこと（今の6年生にしかできないこと）を注入してください。みんなでやり切った時に、自分自身の中にやり切ったという感覚が生まれてくると思います。今まで時間をいっぱいって打ち込んできたのです。いい思いをしてもらいたいです。34人のチームワークで、狂言発表会をみんなで作りあげましょう。感情を爆発させましょう。そういう経験をしてほしいと思います。自分の100%の力を出さずに無難に演じるより、失敗してもチャレンジしてほしいと思います。君たちのつくってきたものは尊いものです。

狂言で一番大事なのはチームワークです。狂言発表会では、「はじめのあいさつ」から「おわりのあいさつ」までが、舞台の人なのです。舞台の上で演じている時だけではなく、自分の出番を待っている間、控室に向かっている時（歩いている時）、自分の席に戻る時、出番が終わった後の友だちの演技を見ている時等、ありとあらゆることに気を配りながら、自分たちの作品をつくりあげてほしいです。自ずといい発表になると思います。そして、演技だけに終わったらダメです。他にいろいろと気付くことができます。